

公園内で見られる植物

写真は4月7日（土）
自然観察会で見られた
植物です



ウリカエデ（カエデ科？）

名前の由来は樹皮がマクワウリの果皮の色合いが似ていることから付いたようです。花は秋になるとやがてプロペラの羽のようになり風に飛んでいきます。

樹皮がきれいで加工しやすいので、ペンダントやストラップにすると素敵なのができますよ。



ウグイスカグラ (スイカズラ科)

名前の由来はウグイスが初めてなく頃花が咲くのでウグイスノキという古い文献があるようですが、カグラというのはカクラの転訛で「狩り座」が訛ったもので、捕らえる場所の意味があります。

ピンク色の花はかわいらしいですね。



ツルシキミ (ミカン科)



ミヤマシキミ (ミカン科)

ミヤマシキミとツルシキミは非常によく似ていて、葉や花・果実はほとんど同じです。ただ、ツルシキミは地上を這う蔓のように見るのが特徴です。葉はアルカロイドを含み有毒ですが、かつては煎じ汁を虫下しとして使っていたそうです。



ヤマブキ (バラ科)

名前の由来は、「山振」という字があてられていたようだ。しなやかな枝が風に揺れる様子から付けられたようですが、私は花の色が山吹色なので付けられたのだと思っていました。花の名前から色の名前が付いたのかも？ヤマブキには八重の花もあります。庭などには八重がよく植えてあります。



ニワトコ (スイカズラ科)

別名「接骨木」と言われています。枝や幹を煎じて水あめ状にしたものを骨折などの患部に当てて湿布をすると効果があるとされている為です。昔の人は民間薬として身近な植物を利用していたのですね。



ショウジョウバカマ (ユリ科)

花が開く頃に新しい葉のロゼットがのびはじめます。葉は厚く光沢があります。花が終わる頃、花茎はさらにのび花被片は淡緑色になって、果期まで残ります。



キランソウ (シソ科)

「地獄の釜の蓋」という別名があるように地面に葉がロゼット状に広がって張り付いています。民間薬 (イシャコロシ) として使われていたらしく、地獄の釜に蓋をして病人をこの世に追い返すという意味もあるらしいのですが？花は青紫色できれいなのですが、庭に生えているといつの間にかすぐに増えるので、抜くには厄介な多年草です。



ツルカノコソウ (オミナエシ科)

蕾の花の姿が鹿の子模様に似ていることからカノコソウと言われる由来ですが、オミナエシの姿に似ていることからハルオミナエシという別名があります。ツルと名が付いていても蔓性ではなく、花が盛りを過ぎた頃、根元から細い茎を地面に出しその先に新しい株を付けるのでこう呼ばれます。



スギゴケ (スギゴケ科)

茎が直立して、細めの葉がその周りに並んでいる様子が杉の枝のように見えます。身近に見られるスギゴケですが、多くはコスギゴケで、庭園にはオオスギゴケやウマスギゴケが多く使われています。



ビワ (バラ科)

ビワは私の大好きな果物の一つですが、葉は打ち身や捻挫・皮膚病に効き、種子は杏仁水の代用として咳止めや去痰に用いられるそうです。葉芽は褐色の綿毛に覆われています。